

お客さま 各位

栃木信用金庫

## 2021年版「田中 一村」カレンダー作成について

栃木信用金庫（栃木市万町9番28号）では、栃木市出身の画家「田中 一村」の作品を採用したカレンダーを2020年版から作成しております。

2021年版カレンダーは、田中 一村の作品の中でも傑作と名高い「アダンの海辺」を採用し、11月2日（月）より当金庫本支店窓口で配布いたします。

当金庫は、これからも“地域で一番信頼される金融機関”を目指して、地域の魅力・情報を発信してまいります。

## 記

## 1. 作品について

本カレンダーの作品「アダンの海辺」は、奄美の自然を愛し、鋭い観察と画力で、亜熱帯の花鳥画で独特の世界を描いた田中一村が、夕暮れの明るい西空と浜辺を背景に植物のアダンを描いた渾身の作品です。



## 2. 配布について

カレンダーをご希望のお客さまには、どなたさまにも、広く配布させていただきますので、お気軽に最寄りの本支店窓口までお申し出いただきますようお願い申し上げます。

尚、数に限りがありますので、なくなり次第、配布終了とさせていただきます。

以上

## 1. 田中一村 (1908年～1977年) について

田中一村 (たなかいつそん 1908～1977) は、栃木県下都賀郡栃木町 (現・栃木市) に6人兄弟の長男として生まれました。父は彫刻家の田中稲村 (本名は彌吉)、一村 (本名は孝) は若くして南画に才能を発揮し「神童」と呼ばれました。

6歳の春に一家は栃木から上京、7歳の時に児童画展で天皇賞 (文部大臣賞とも) を受賞、父から「米邨」の画号を与えられました。

18歳で東京美術学校 (現在の東京藝術大学) 日本画科に入学、同期に東山魁夷、加藤栄三、橋本明治らがいました。しかし2ヶ月で退学、理由は学校の指導方針への不満や父の病気により南画を描いて生計を支えなければならなかったからと考えられます。『大正15年度版全国美術家名鑑』に「田中米邨」の名が載るほど有名になっていました。

23歳の時、「自分の将来行くべき画道をはっきり自覚し」と南画を脱却するが支持者の支持は得られませんでした。

30歳の時に一家は千葉市千葉寺町に転居、約20年間周りの自然や風物のスケッチを行い、新しい絵画への道を模索しました。

昭和22年、一村39歳の時に川端龍子主宰の第19回青龍社展で「白い花」が入選しました。

翌年、田中一村の名で第20回青龍社展に「秋晴」「波」を出品、「波」は入選するが「秋晴」の落選に納得できず「波」の入選を辞退、その後日展や院展でも落選。

47歳の時、九州、四国、紀州を旅し、50歳で奄美大島に移住。

54歳の時に「5年働いて3年間描き、2年働いて個展の費用をつくり、千葉で個展を開く」という画業10年計画を立て、紬工場で染色工として働きました。その計画通り59歳の時に工場を辞めて制作に打ち込み「アダンの海辺」などの代表作を作り、2年後に紬工場で働き64歳で辞めて制作を再開、68歳の時に倒れ1週間入院、体調を何度も崩しながら、生涯独身で孤高の画家として制作を続け69歳の一生を終えました。

一村は出生地の栃木市にある田中家の菩提寺の満福寺で永眠しております。

## 2. 作品「アダンの海辺」について

昭和44年、田中一村61歳の傑作。一見油絵かと思われませんが、岩絵具の特性を引き出して描かれた日本画です。

添状では、「この絵の主要目的は乱立する夕雲と海浜の白黒の砂礫 (されき) であってこれは成功したと信じております 何故無落款で置いたのか それは絵に全精力を費し果してわづか五秒とはかゝらぬサインをする気力さえなく やがて気力の充実した時にと思いながら 今日になってしまった次第なのです」と記し、支援者への書簡には「半年近くかゝった大作」「私の命を削った絵で閻魔大王えの土産品」と述べ、奄美の自然への敬虔な想いをアダンの葉の広がりを中心に小さな起伏を繰り返す波間と一粒一粒の砂礫に表現出来た充実感が感じられます。

※アダン…亜熱帯から熱帯の海岸近くに生育する高さ2mから6mの常緑の小高木。雄株と雌株があり、葉はパナマ帽の原料となり、果実はパイナップルに似た外観で甘い芳香がするが繊維質のため実の大部分が食用には適さない。